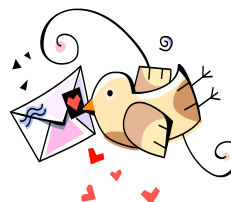


安全就業ニュース

公益社団法人全国シルバー人材センター事業協会

★ 安全リレー ★



神奈川県における安全・適正就業の取組み

1. 神奈川県シルバー人材センター連合会の概要（平成29年度実績）

・センター数	32センター	（内、国庫補助対象外：2センター）
・会員数	34,656人	（内、国庫補助対象外：141人）
・粗入会率	1.3%	
・受注件数	105,643件	（内、派遣：1,481件）
・契約金額	12,914,580千円	（内、派遣：866,725千円）
・就業延人員	2,732,537人	（内、派遣：138,220人）
・就業率	請負・委任：68.3%	派遣：95.1%
・就業実人員	請負・委任：23,662人	派遣：1,898人

神奈川県には狭い県土に3つの政令指定都市があり、これらのセンターには本部の他それぞれ複数の事務所（横浜市6、川崎市3、相模原市6）が置かれ、このことが大きな特色となっている。

2. 事故発生状況

（1）過去5年間の事故発生状況

年度	傷害事故（件）			賠償事故 （件）
	就業中	就業途上	合計	
25	143 (3)	45 (0)	188 (3)	116
26	128 (0)	42 (0)	170 (0)	123
27	125 (0)	59 (0)	184 (0)	105
28	112 (0)	26 (0)	138 (0)	115
29	113 (0)	25 (0)	138 (0)	125

（注）1. 傷害事故件数中、（ ）内は死亡事故数

2. 傷害事故・賠償事故ともに各年度中にシルバー保険が支払われた件数

(2) 全シ協へ報告した事故件数の推移について

「死亡」又は「1 ヶ月以上の入院」及び「後遺障害 30%以上」の事故

	墜落・転落	転倒	交通事故（道路）	合計（件）
H27	4	4	1	9
H28	1	2	0	3
H29	3	0	3	6
H30 (4月～8月)	3	1	1	5

本県の傷害事故発生状況は平成 27 年度をピークに減少する傾向にあるが、全シ協への報告が必要となる事故については、平成 30 年度 5 か月間で既に 5 件発生しており、平成 27 年度から平成 29 年度の年平均 6 件に比べても増加していることがわかる。

また、もう一つの特徴として、「墜落・転落」と「転倒」による事故が多くを占めており、平成 30 年度は残念なことに 3 年ぶりに墜落による死亡事故が発生した。なお、その原因として、重症にはつながらなかったが他の事故同様、安全帯を装着していなかったことがわかっている。

3. 安全就業への取り組み

(1) 「安全対策検討部会」及び「事故防止委員会」の設置と開催

安全就業に係る対策検討部会及び事故防止委員会については、それぞれ 5 月と 3 月の年 2 回開催し、県内における就業中、就業途上の事故の分析とそれに伴う事故防止対策及び、「安全就業対策実施計画」の策定などについて検討・実施している。

平成 30 年度重点実施項目

- ・「転倒」、「転落」事故の防止強化（植木作業中事故を含む）
- ・就業途上（自転車・バイク等）交通事故の防止強化
- ・会員における日常的な健康管理

(2) 安全就業研修会の開催

本県では 3 年ぶりに県内で死亡事故が発生したことから、センターにおける安全就業担当者や事務局職員を対象とした安全就業研修会について、従来は交通安全対策と併せ 2 題設定していたテーマを、今年度は「死亡事故を発生させないために」の一つに絞り実施

した。

講師は中央労働災害防止協会関東安全サービスセンターの吉川氏をお招きし、内容は安全帯や保護帽、安全靴などのそれぞれの機能や重要性、また、「墜落・転落」に並びやはり発生数の多い「転倒」、「熱中症」や「ハチ刺され」についても講義いただいた。その中で特に、「転倒」は「墜落・転落」につながりやすく大変危険であり、加えて加齢による視力、体力、判断力の衰えにより発生しやすくなることから、照明や整理整頓など作業環境の対策が重要であることなどお話しいただき大変有意義であった。



平成 30 年度安全就業研修会の様子

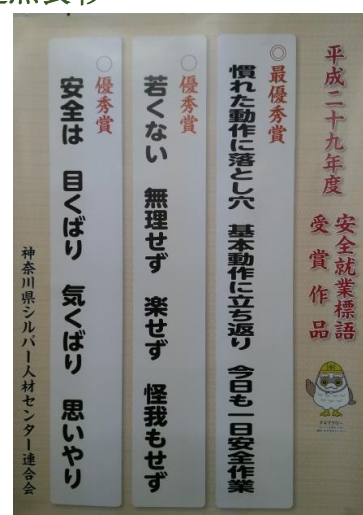
(3) 「安全・適正就業パトロールの実施と各センターにおける安全対策など

パトロールについては連合会では実施しておらず各センターにおいて計画的に実施しており、また、各センターでは、契約時の就業前安全教育を始め、交通安全講習会、脱水や熱中症予防、普通救命講習など全体に向けたものや、業種別に植木、刈払機、駐輪場管理などに関連した講習会や研修会も実施している。

(4) 「安全就業標語」「ヒヤリハット体験事例」と安全就業拠点表彰

本県では毎年、会員及び職員を対象に「安全就業標語」の募集を、また隔年で「ヒヤリハット体験事例」の募集を実施しており、応募作品の中からそれぞれ最優秀賞 1 作品、優秀賞 2 作品、佳作 5 作品を選定し、安全就業優秀・優良拠点とともに定時総会において表彰を行っている。

なお、連合会では、「安全就業標語」における最優秀賞優秀の作品をポスターとして作成し、また「ヒヤリハット体験事例」の優れたものについても「ヒヤリハット体験事例集」としてとりまとめ、ポスターとともに安全就業の推進に活用している。





(5) 安全対策資料

各センターより四半期ごとに報告される事故報告書をもとに、傷害事故と賠償事故について取りまとめた「安全対策資料」を作成しており、さらに、県内で発生している事故の事例や事故の傾向、事故種類別の比較をはじめ、全シ協や厚労省などからの安全に関する情報などもこの中で提供している。

(6) 今後の安全就業について

今後の安全就業に向けた取り組みとしては、死亡事故や重篤事故を発生させないことを目標に、加齢により身体能力、判断力などが低下することをふまえて、馴れなどによる油断をしないことや、安全带や保護帽の装備着用はもちろんのこと、健康をこころがけた日常生活を推奨し、いつまでも長く元気で就業していただくよう働きかけていきたいと考えている。

神奈川県シルバー人材センター連合会様からの報告でした。
詳細にわたるご報告、誠にありがとうございました。

平成 29 年度損害賠償責任保険事故に係る調査について（続報）

先月号（9月号）に引き続き「平成 29 年度損害賠償責任保険事故に係る調査について（依頼）」（平成 30 年 8 月 2 日付 30 全シ協発第 110 号）により、平成 29 年度に保険給付があった損害賠償金額が 1 件あたり 20 万円以上の事故調査依頼をお願いしたが、集計結果の続報を報告いたします。

1. 損害賠償金額 上位 5 件の事故内容

表1

（単位：千円）

No.	性別	年齢	事故の状況	事故の発生原因	損害を与えた対象		②センターの負担金	③会員の負担金	総合計 (①+②+③)
					損害を与えた対象	①保険金額			
1	男性	69	空き家の樹木の剪定を依頼され誤って樹木を根本から伐採してしまった	作業内容の確認不足	庭木	6,711	711	0	7,421
2	男性	74	植木作業の道具及び残材の回収中、駐車場で方向転換をしようとした時、ブレーキとアクセルを踏み間違えアパートに突っ込んだ。	本人の加齢・疲労等によるアクセルとブレーキの踏み間違えと考えられる	アパート、ダンプ(レンタカー)	6,201	0	0	6,201
3	男性	74	市営墓地管理業務において、目隠しにしているヒバの生垣の敷地内道路に飛び出している枝を払う作業を指示されたが飛び出している枝以外に地面から1.5mの高さで下枝を約70mにわたって切った	就業会員の作業内容の判断誤り	ヒバの生垣の下枝を地面から1.5mの高さまで枝を払った。	3,159	5	852	4,016
4	男性	81	刈払い機を使用し、除草作業をしていたところ、屋外灯油タンクの配管を誤って損傷したことで、灯油が漏れ出し損害をあたえた	作業場所の周囲の状況の確認不足による	草刈時に灯油配管の銅パイプを半分程度損傷し、灯油490Lが流出した処理費用	2,881	0	0	2,881
5	男性	75	玉ねぎ集出荷施設場で自センター会員が入口扉を手動で閉めた際、フォークリフトと扉が接触し、扉の右側が破損	入口扉の扱いに不慣れだったため	作業用入口扉	2,332	0	0	2,332

2. 会員の負担金額について

表 2 のとおり、平成 29 年度損害賠償責任保険事故（1 件あたり 20 万円の事故）469 件のうち、会員負担金額が会員の負担額がない事故（「0 円」）が 226 件（48.2%）と最も多くなっています。

会員負担金額がある事故は 243 件（51.8%）でその内訳は「1 万円」134 件（28.6%）が一番多く、以下「1 千円」が 60 件（12.8%）、「3 万円」が 11 件（2.3%）、「5 万円」が 7 件（1.5%）、「2 万円」が 4 件（0.9%）となっています。また、会員負担金額の最高金額は 852 千円です（事故内容等は、表 1 の NO.3 をご参照ください）。

表2

会員の負担金額	件数	割合
0 円	226 件	48.2%
1,000 円	60 件	12.8%
10,000 円	134 件	28.6%
20,000 円	4 件	0.9%
30,000 円	11 件	2.3%
50,000 円	7 件	1.5%
その他	27 件	5.8%
合計	469 件	100.0%

平成30年度9月事故速報

(1) 重篤事故

9月は、2件の重篤事故報告があり、就業中、就業途上ともに1件の事故であった。
 9月までの累計で比較してみると、平成29年度の24件に比して平成30年度は21件と3件減少している。
 また、就業中・就業途上別にみると、就業中では平成29年度の16件に比して14件と2件の減少となっており、また就業途上においては、平成29年度の8件に比して7件と1件減少する結果となった。

9月報告分までの累計

平成30年度9月累計	就業中・ 就業途上	件数	内 訳				平成29年度同月累計					
			事故の程度		性別		計	事故の程度		性別		
			死亡	入院	男性	女性		死亡	入院	男性	女性	
就業中	14 (1)	13 (1)	1 (0)	13 (1)	1 (0)	就業中	16	11	5	16	0	
就業途上	7 (1)	7 (1)	0 (0)	6 (1)	1 (0)	就業途上	8	6	2	5	3	
計	21 (2)	20 (2)	1 (0)	19 (2)	2 (0)	計	24	17	7	21	3	

↳ 対前年度比 87.5%

※ () 内は9月報告分

9月報告分内容

No.	性別等	仕事内容等	事故の状況	安全 帽	安全 帯	交通 手段
20	男 63 歳	就業中 (死亡)	森林組合職員2名と共に死亡会員を含む会員2名で山林地籍調査杭打ち作業中、約50m滑落事故が発生し、病院に搬送されたが死亡した。	○	—	—
21	男 91 歳	就業途上 (死亡)	公園の清掃作業終了後、自転車で帰宅途上10tダンプトラックの左折時に巻き込まれ死亡した。	—	—	自転車

(2) 1ヶ月～6ヶ月未満の入院及び後遺障害の事故

9月は、就業中の事故11件、就業途上の事故12件と、合計23件であり、昨年度同月の33件と比して10件の減少となっている。また、男女別では、男性は10件の減少となっており、女性は昨年度と同数であった。

9月までの累計で比較してみると、昨年度の件に比して、本年度は150件と9件の増加となっている。就業中・就業途上別にみると、就業中は8件の減少となっているのに対して、就業途上は17件の増加となっている。男女別では、男性は1件の減少となっているのに対して、女性は10件の増加となっている。

平成30年度9月分

	仕事の内容	事故数(件)		うち男性(件)		うち女性(件)		平均年齢(歳)	
		9月	累計	9月	累計	9月	累計	9月	累計
就業中	植木・樹木の剪定等	3(10)	37(46)	3(10)	36(44)	0(0)	1(2)	70	74
	除草作業	3(9)	21(21)	3(5)	15(15)	0(4)	6(6)	73	75
	屋内・屋外清掃作業	3(4)	13(14)	1(1)	7(3)	2(3)	6(11)	71	71
	その他	2(6)	26(24)	2(6)	19(18)	0(0)	7(6)	72	75
	計	11(29)	97(105)	9(22)	77(80)	2(7)	20(25)	72	74
就業途上	徒歩	4(1)	16(9)	0(0)	5(4)	4(1)	11(5)	75	76
	自転車	4(3)	21(16)	2(2)	9(9)	2(1)	12(7)	76	74
	バイク	2(0)	12(11)	1(0)	4(5)	1(0)	8(6)	84	77
	自動車	2(0)	4(0)	2(0)	2(0)	0(0)	2(0)	80	75
	計	12(4)	53(36)	5(2)	20(18)	7(2)	33(18)	77	75
合計		23(33)	150(141)	14(24)	97(98)	9(9)	53(43)	75	74

()は平成29年度同月、累計では同月までの発生件数

「シルバー人材センター団体傷害保険に係る事故件数等報告書」については、事故の有無にかかわらず毎月8日までに必ず提出願います。

(平成30年4月24日付 事務局長通達により通知済)

編集後記

10月に入っても台風、夏日そして、秋を通り越し、一気に冬が来たように気温の差が激しい10月前半でしたが、今年も「寒暖差疲労」に注意してください。「寒暖差疲労」とは、寒暖差に対応しようとしてエネルギーを消耗し、疲れを感じることで、症状としては、肩こり、めまい、冷えの悪化、食欲不振などで、高齢者や女性は筋肉量が少ないことなどから、寒暖差疲労に陥りやすく注意が必要だそうです。

対策としては体を温める食事やよく噛むこと。ちょっとだけきつい運動をすることやぬるめのお湯にゆっくり入るのもよく、血めぐりをよくしてしっかり睡眠をとり、食事内容を工夫することが重要とのこと。

寒暖差疲労に陥らないようにして、紅葉の季節を楽しみましょう。(松山)

先月号に引続き、今月号でも「平成29年度賠償責任者保険事故に係る調査について」の続報を掲載しました。今回は保険支払金額上位5件について事故状況を掲載しましたが、200万円以上の高額賠償保険事故は14件ありました。その発生原因としては「草刈作業時の飛石事故」と「会員の作業内容の確認不足」の2つが目立っていますので、各センターにおかれては十分注意して、高額保険事故を1件でも少なくなるようお願いします。(笹野)

事故防止、急ぐな、あせるな、気を抜くな

<頒布物のご案内> 新規会員さんへの研修に活用ください!

全シ協では、シルバー人材センター事業を円滑に運営・推進していただく一助として、手引書、冊子などの頒布物を発行しています。

事故に学ぶ交通安全のポイント「改訂版」

交通事故の死亡者は年々減少傾向にある中、65歳以上の高齢者が占める割合は年々高くなっています。シルバー人材センター会員の皆様においても就業途上において歩行中・自転車乗車中の事故が多く発生しています。このため、事故に注意していただき、安全な就業をしていただくため改訂版を発行しました。是非、会員の皆様に対する研修会・講習会等のテキストとして活用ください。



頒布価格 216 円 A4 判
(税込・送料実費)

【改訂の内容】

- 1 現行のB5版/16頁からA4版/20頁とし、見やすく、分かりやすく、内容の充実を図りました。
- 2 警察庁交通局の「平成27年中の交通事故の発生状況」から、特に、高齢者の事故が多い内容や原因について注意喚起を行う事項を追加しました。
- 3 シルバー人材センターで発生した「就業途上に起きた交通事故」の状況や事故件数及びこれに伴う再発防止のポイントを「イラスト、事例」により掲載しました。
また、ヒヤリ・ハットの事例についても、「イラスト、事例」により掲載しています。
- 4 自転車の危険運転について、道路交通法の改正が行われ、この改正内容等について、「イラスト」等により解説を行い、追加しました。

【お問い合わせ先 全シ協企画情報課 TEL 03-5665-8013】